



発行所 国鉄労働組合
盛岡地方本部
発行者 奈良岡 克也
編集者 小林 良宏
メールアドレス
nrumori@poem.ocn.ne.jp

2005.8.10
第1364号



みんなつけよう
国労バッチ

組織強化・拡大 モデル分会交流会

組合員一丸の拡大行動を

「分会活動」の強化も大切に

地方本部は、七月三〇日に盛岡市・国労会館で「組織強化・拡大モデル分会交流会」を盛岡・青森両支部代表者と



19人が参加し意思統一をはかった

JR東日本会社が東労組内の組織混乱、革マル問題等で労務政策の変更をせざるを得ない状況を認識し、その具体化として、昨年の配属差別事件の一括和解や昇進差別の和解に向けた動き等に現れている。今のチャンス最大限活用

19人の参加で 有意義な交流

交流会は、小林副委員長の開会挨拶で始められ、地方本部執行委員長と座長就任を兼ねて奈良岡委員長は、「採用差別事件の闘いは、九月一五日に一部闘争団が鉄道建設施設整備支援機構(旧鉄建公団)を相手に訴えている裁判の判決が出る。その内容を国労としても注視している。第七三回定期全国大会の成功を勝ち取り、採用差別事件の早期解決の流れを作ろう。昇進

差別事件の和解については、現在中労委の場で調査が続いている。昇進差別事件の和解を勝ち取り、労使正常化の闘いを前進させよう。組織拡大については、この間五人の拡大を勝ち取ったことに自信と確信を持つことが必要だ。厳しい中にあるが拡大ができた。今後は平成採用者の拡大も勝ち取れるよう、さらなる各級機関の取り組みをお願いする」と情勢を含めて挨拶。続いて菊池組織部長は「モデル分会の経験交流・実態点検の報告の中からお互い交流を深め、多くの分会の率先垂範となる会議としていこう」と述べ、①組織強化・拡大の

当面の主な日程

- ▽8月18日 第11回地本執行・闘争委員会
- ▽8月18日 相互援護会第1回理事会
- ▽8月20日(東京)

第8回東日本本部組織拡大 会議

- ▽8月27日 地本連転協議会定期委員会
- ▽8月30日(31日(熱海)) 第73回定期全国大会
- ▽9月8日(9日) 地本会計監査

感情面で拭拭しきれない。組織防衛も必要でないか。国労組合員が全体で真剣に考えない限り加速的拡大はできない。そのような分会集会所が必要だ」との報告があった。しかし、「月一回の分会会議で組織拡大も議題に入れながら、元気の出る会議をしてほしい。若い社員と気軽に話ができればいい。平成採用者の社員がどのように国労を見ているのかもつと国労の良さをアピールする必要がある。全体で組織拡大に力が入るキヤッチコピーをつくることも必要だ」等、拡大に向けた決意も含めた報告もされた。

実践にあたって、②今後の行動にあたって、③具体的な取り組み等について提起し討論に入った。討論では、「東労組は、浦和電車区退職強要事件で七人の連捕者を出して以来目立った行動はしていないが、青年部の活動家作りが熱心になっている。レクリエーション等に若い組合員を集め、青年部中心の活動をしているように感じる。会社の対応にも変化が見られ、職場の雰囲気も変わってきている」等、この間の運動の積み上げによる、拡大に向けた環境が整いつつある実態が報告された。一方で、「脱退して行った人達にまだ

各モデル分会の取り組みの報告を受け、菊池組織部長は「一八年度差別されてきた実態を変える運動として組織拡大が必要である。JR職場の現状は、国労がいるから安全が守られているのが実態ではないか。一人ひとりの仲間を大切にできたのが国労である。そのような国労組合員の行動を他労組の組合員は見

全国・東日本大会 代議員15人決定

- 二〇〇五年度全国・東日本本部大会の代議員選挙が七月二〇日に施行され別記の通り代議員が決定した。
- 全国大会は八月三〇日・三十一日、東日本本部大会は九月一六日・一七日に開催される。
- ◇**【全国大会代議員6人】**
- ▽盛岡支部 佐々木正弘(一関施設分会)
- ▽前地本出向連議長 小野寺俊彦(北上駅連分会)
- ▽北上駅連分会委員長 齋藤庄司(盛岡運輸分会)
- ▽盛岡支部委員長 高橋伸二(北上施設分会)
- ▽地方本部書記長

青森支部・同駅連 三浦勝弘さんを迎え 国労加入の歓迎会



三浦さん(右)へ奈良岡委員長から国労手帳を手渡す

- ▽青森支部 阿部一久(八戸運輸分会)
- ▽青森支部副委員長 奈良岡勝(青森施設分会)
- ▽青森施設分会委員長 小林良宏(盛岡施設分会)
- ▽地方本部副委員長
- ▽青森支部 菊池要悦(盛岡駅連分会)
- ▽地方本部副委員長 天間正幸(北上電気分会)
- ▽北上電気分会委員長 小林良宏(盛岡施設分会)
- ▽地方本部副委員長
- ▽青森支部 笹山賀庸(八戸工務分会)
- ▽青森支部書記長 野坂均(青森運輸分会)
- ▽青森運輸分会委員長 高橋清光(青森運輸分会)
- ▽青森支部執行委員

最初に、石井青森駅連分会分会長が「六年前、三浦さんは、やむを得ず脱退となった。気持ち新しい悪いと思ってきた。それを打ち消すために仕事に励んだ。国労に加入し安心して活動したい」という一大決心で帰ってきた。一つひとつ頑張っていく」と決意を述べた。その後、石井分会長が国労バッチを三浦さんの胸に付け、奈良岡委員長が国労手帳を手渡し懇親会に入り、奈良岡委員長の団結カンパロー三唱で中締め、東労組からの加入に重大な意義を確認し終了した。

期間率減額を保障 期末手当加給付制度

地本互助会だより

加入資格、手続き、募集期間、掛金、給付発生、期間率調査期間等、具体的内容は「一〇月期加入と増口案内」の国労盛岡互助会特集号(八月一日付)を参照願います。

三浦さん(右)へ奈良岡委員長から国労手帳を手渡す

青森支部・同駅連分会は、六月二五日付けで東労組を脱退し国労に加入した三浦勝弘さん(青森駅)の「国労加入歓迎会」(二〇〇五人参加)を七月六日に開催した。

最初に、石井青森駅連分会分会長が「六年前、三浦さんは、やむを得ず脱退となった。気持ち新しい悪いと思ってきた。それを打ち消すために仕事に励んだ。国労に加入し安心して活動したい」という一大決心で帰ってきた。一つひとつ頑張っていく」と決意を述べた。その後、石井分会長が国労バッチを三浦さんの胸に付け、奈良岡委員長が国労手帳を手渡し懇親会に入り、奈良岡委員長の団結カンパロー三唱で中締め、東労組からの加入に重大な意義を確認し終了した。

ていこう

八月に入り、梅雨明け宣言もやつと出され、土用あけの暑さが厳しい季節になって来たように思える。花輪線、山田線の一部区間ではまだ冷房車が投入されていない。野外で業務に従事する仲間も多々いる。熱中症には十分注意して業務を遂行して行きたいと思う。毎日のようにマスク各社は、アスベストに関する健康被害について報じている。アスベストが原因と見られる中皮腫は潜伏期間が三〇年〜四〇年たって発症するという。文科省は学校の校舎、体育館へのアスベストの使用状況を再調査することになった。国の未来を担う子供たちに健康被害が広がらないように万全の対策を取って欲しい。JR東日本においても元社員が中皮腫で亡くなっていたことが報じられている。旧国鉄時代に建てられた老朽建物やDL機関車、客車、旧世代車両の座席下の暖房管等を使用しており、一刻も早い実態調査が必要である。また、JR東日本では右綿に関する臨時の特殊健康診断を実施することになった。過去においてアスベストに関わる業務に従事していたと思われる組合員は、臨時健康診断を必ず受けて欲しい。郵政民営化法案・憲法改正・年金改革・アスベスト問題・靖国公式参拝等、私たちが巻き込まれている。私たちが人間らしく生きていくための政策を政府に求めていきたい。八月三〇日から定期全国大会、九月一六日から東日本本部定期大会と続く、各大会の代議員の真摯な討論により新しい運動方針を確立し、働く者が安心して働き続けられる職場づくりに奮闘しよう。(岩)

